

製品名: Raptor (リン酸化 Ser863) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab06063**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000
分子量	

抗原情報

遺伝子名	RPTOR
別名	Regulatory-associated protein of mTOR (Raptor) (p150 target of rapamycin (TOR)-scaffold protein)
遺伝子 ID	57521.0
SwissProt ID	Q8N122
免疫原	ヒト Raptor 由来の合成ペプチド（リン酸化 Ser863）

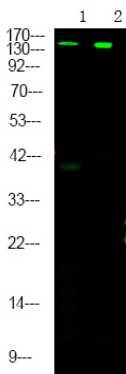
背景

機能:FRAP1 経路に関与し、FRAP1 とほぼ化学量論比で会合して栄養感受性複合体（NSC）を形成する。FRAP1 シグナル伝達経路に

において足場タンパク質として極めて重要な役割を果たし、この相互作用は EIF4EBP1 の触媒リン酸化に必須である。下流エフェクター RPS6KB1 への栄養刺激シグナル伝達において正の役割を果たす。栄養欠乏条件下では、FRAP1 キナーゼ活性の負の調節因子として機能する。FRAP1 との相互作用の調節は、細胞が異なる環境条件下で細胞増殖速度と細胞サイズの維持を調整するための重要なメカニズムである。、その他:ラパマイシンは、栄養素の利用可能性に関係なく FRAP1 との相互作用を不安定化し、解離の効力は栄養豊富な条件下で増加する。この作用により、FRAP1 は基質から分離され、FRAP1 の本来の触媒活性を変化させることなくシグナル伝達を阻害します。、類似性: WD リピート RAPTOR ファミリーに属します。、類似性: 7つの WD リピートを含みます。、サブユニット: FRAP1 との結合とは独立して、4EBP1 および RPS6KB1 に直接結合します。EIF4EBP1 のリン酸化が不十分な形態またはリン酸化されていない形態に優先的に結合し、この結合は FRAP1 のリン酸化を触媒する能力にとって重要です。FRAP1 との複合体は、ロイシンに富む条件と乏しい条件の両方で物理的に相互作用するため、少なくとも 2つの異なる安定性を持つ栄養素によって決定される状態で相互作用します。、組織特異性: 骨格筋で高く発現し、脳、肺、小腸、腎臓、胎盤でもわずかに発現します。、

研究分野

画像データ



MCF-7 細胞、HepG2 細胞、マウス心臓組織のウェスタンブロット解析。一次抗体は 1:1000 希釈。二次抗体は 1:10000 希釈。